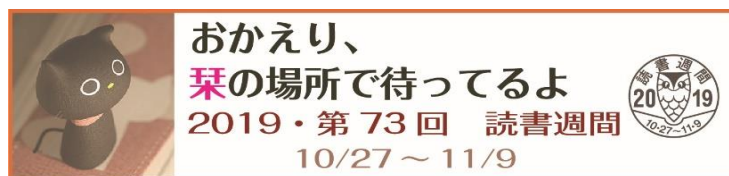


我孫子市民図書館 秋のたより

発行 我孫子市民図書館
〒270-1147 我孫子市若松26の4
電話 04-7184-1110



我孫子市民図書館 開館から40年を 迎えました！



我孫子市民図書館は、昭和41年9月に蔵書約300冊で公民館図書室として発足しました。その後旧市民会館内に我孫子市民図書館として約26年間市民の皆様へ親しまれ、平成14年に現在のアピスタ本館が誕生し、今年7月で40周年を迎えることができました。

図書館としての役割も時代とともに様変わりしてきましたが、その時々々の要望に応じながら成長を続けてきました。それによって蓄積された資料も様々なジャンルで充実し、全国の人口13万人レベルの図書館としては貸出冊数や利用率も他の図書館に引けをとらないばかりか上位にランクインしています。このことは、利用者の皆様が図書館と一緒に成長させてくれた証しだと確信しております。

平成31年3月に策定した「子どもの読書活動推進計画」の中で、学校図書館での自主的な読書活動支援体制の整備を掲げ、学校図書館支援センターの充実を図るため、図書館と教育委員会関係課や市内小中学校の司書教諭、学校司書との連携を強化し学校図書館の「学習センター」機能を充実させるための方策を進めています。読書離れが進む世代に、本を利用し、考え、自らが行動していくことができるように導くためそれぞれの立場で応援しています。

また、昨年からは市民図書館から遠距離にある我孫子市立第三小学校に働く車の移動図書館そよかぜ号が出向き、児童や先生に利用してもらうこともできるようになりました。

これからも、我孫子市民図書館は利用される皆様へ寄り添いながら市の職員が責任を持って運営してまいりますので、ご協力をお願いいたします。



小学校巡回中の様子

読書週間10月27日～11月9日



手賀沼のうなぎちゃん

毎月広報あびこ16日号で連載中の「図書館員が選ぶこの一冊」で“読書の秋”に読む一冊を選んでみませんか？（過去の分は図書館ホームページでご覧いただけます。また、冊子でのご用意もありますのでカウンターでおたずねください。）



図書館員の勝手に八景！

我孫子市は来年2020年の7月で市制50周年を迎えます。今後も我孫子がみんなに愛される故郷になり、この風景が次の50年後も残っていることを願って、図書館員が我孫子市内のおすすめスポット「勝手に八景！」を厳選しました。ぜひ、チェックしてみてくださいね。

かじ池



我孫子市日の出にあるレストランの庭園、出入りは自由で一般公開されている。訪れたのは、7月の朝。睡蓮の花が咲いていた！モネの代表作(?)とも見紛う景色は一度見る価値がある。

満月の夜：せきわく橋



布佐と印西の堺、手賀川にかかる“せきわく橋”からみる満月が水面に映る。昇る月の時刻や方位、暗くなりすぎない季節、そして天気が一致しないとお目にかかれない。チャンスは年間でもそう多くはない。

高野山桃山公園



高野山の高台に位置した公園からの眺めは、手賀沼の雄大さを倍増させる。布佐に向って蛇行していく様子もよくわかる。少し早い時間に昇ってきた月が南の空に見えていた。

体育館裏田園地帯



育った稲の緑が規律正しく並び、風が吹くと一斉に、またときには時間差でたなびき、風の道が現れる。利根水郷ラインと古戸の森にはさまれた田園地帯である。

湖北駅の桜



湖北駅南口ロータリーの真ん中にある桜の木。きれいに手入れされた花壇とともに利用客を迎える。ホームからの満開の桜も見ごたえがあるので、春には、ぜひ見に行くことをおすすめする。

あえて遠くからの手賀沼花火大会



夏の一大イベント、打ち上げは手賀沼のほとりだが、見るのはあえて東の端布佐である。人々の喧騒から遠く離れ、にぎわいを想像しながら夜空を見る。会場から約12km離れているが花火の音は大地を揺らすほど響く。

沈む夕日



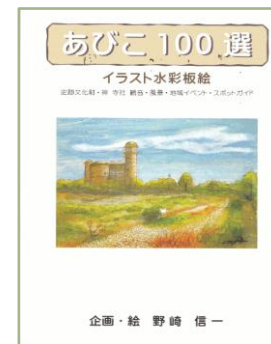
けやきプラザから久寺家方面を見た景色。手前は我孫子駅、中央にマンションがそびえたつ。高いビルができた現代だからこそ見ることができる景色。夕日に引張られ雲も美しい姿をあらわしていた。

アビスタ図書館から手賀沼を望む



アビスタ内の図書館、西面には外に出られるスペースがある。手賀沼が木立の間から見え、水辺の涼しさが感じられる場所。夏のある朝の一枚。

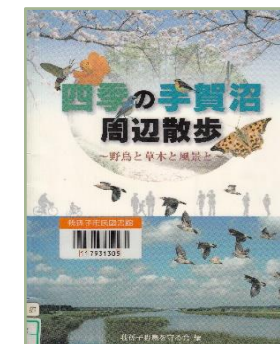
＜自分特選スポットを探すのに参考となる本＞



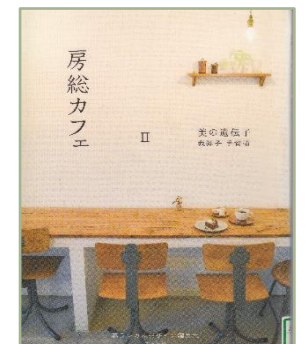
『あびこ100選』
野崎信一／著者・企画



『あびこガイドまっぷ』
我孫子市商業観光課／編



『四季の手賀沼周辺散歩』
我孫子野鳥を守る会発行



『房総カフェ II』
沼尻 互司／著
暮ラシカルデザイン編集室

「子どもの読書活動推進計画」を策定しました

図書館では、我孫子市で育つすべての子どもたちが、生きる力を育み、豊かな人生を歩めるよう読書を軸にした活動で後押ししていきます。

●基本方針を次の4点として取り組みます。

- (1) 子どもの自主的な読書活動を支える読書環境の整備・充実
- (2) 家庭・地域との連携・協力による読書に親しむ機会の充実
- (3) 学校図書館における自主的な読書活動支援体制の整備
- (4) 子どもの読書活動に関する社会啓発や広報の推進

次の2冊は、子どもに関わるすべての大人の方々にも、本を読む楽しさ・重要さを知っていただきたく紹介します。いずれも、生涯をかけて子どもと子どもの本に携わっている方の著作です。



『サンタクロースの部屋』松岡 享子／著 こぐま社

子どもと本を愛し、「児童図書館員」として活躍し続ける著者の「ひとりでも多くの子どもたちに本のたのしみを」という思いが詰まった1冊。子どもに本を手渡すこと、お話を語ること、心を込めて読み聞かせをすることなど、子どもと本をつなぐ上で大切なことが、著者がこれまで出会ってきた人々との関わりを通して語られる。子育て中の方はもちろん、子どもと本に関わるすべての人におすすめしたい。



『読む力は生きる力』脇 明子／著 岩波書店

様々なメディアが私たちを取り囲んでいる現代になぜ「子どもに本を」なのだろうか。この問いに対して児童文学の研究者・翻訳家である著者が、自身の経験や具体例をあげながら丁寧に紐解いていく。読書の「量」だけにとられず、想像力や自ら考える力を育み、「生きる力」を子ども達に伝えていく本とはどのようなものなのか……。本質を見抜く目が大人にも求められている。

☆イベント予告☆ 詳細は、広報あびこでお知らせします。

○絵本の読み聞かせ連続講座

2020年2月19日(水)・2月26日(水)

いろいろな絵本を知って、読み聞かせの基本や役割などを学ぶ講座です。

○成田線開通120周年記念イベント

2020年2月4日(火)～2月16日(日)

成田線を中心に千葉の鉄道の写真や説明パネル、昔のパンフレットなどをアビスタ全館をジャックして展示します。

布佐分館では、水彩画『成田線百選』(野崎信一さん作)を展示。



我孫子駅4番線で発車を待つ成田行



図書館員の勝手に八景！ 番外編：巴水の手賀沼

版画家・川瀬巴水昭和5年の作品「手賀沼」を知っていますか？

巴水が見たと思われる位置から令和元年7月の我孫子を見てみた。手前の緑は現在は田んぼだが、昭和5年当時は手賀沼の水辺であった。奥に見えるのは湖北台団地。少し変わったが90年を経てなお当時をしのぶ風景である。(巴水作「手賀沼」はアビスタ本館まちづくり郷土コーナーに展示あり)